

＜翻訳＞アルザス語を読み書きするためのガイド¹

ダニエル・クレヴェナ＝ヴェルナー、エドガー・ツァイトラー（宮腰駿、杉浦黎訳）

序文

私たちはアルザス語を書くことができるのか？

この問題はいつも私たちに提示されている。アルザス語は書くことができる。しかし、これはまずもって口頭での言語がドイツ語という標準化された言語を背景にしているという前提の下でのことである。多くのアルザスの作家は多大なる成功をもってかように我々の言語を「不滅」のものとしてきた：そのうちの数例をあげるならば Marie Hart, Nathan Katz, André Weckmann がいる。

しかし、なぜ、そしてどのように今日アルザス語は書かれるのか？我々の文化の仲介物たるアルザス語はアルザスの北から南にわたるあらゆるヴァリエントの味わいを表現するために、書くことに依拠できなければならない。たしかに、アルザス語は自由の言語である。しかしながら、書きことばにおいてともに開花するためには指導的な方針は必要である。書くこと、それは感情、知識の共有を望むことでもある。このことを助け、そしてまた過度にランダムな書記によって読みづらくなるリスクにぶつかることなく読み手が我々の言語の繊細さを享受できるようにするために、OLCA²はこの小さなガイドの形でいくつかの助言を行うことを望んだ。情熱を持った方言研究者・言語学研究者である Danielle Crévenat-Werner と Edgar Zeidler はこの取り組みに対して ORTHAL 方式³を説明することをもって協力してくれた。この方式は彼らが調和し、一貫し、それぞれの方言に適合した書記体系をアルザス人にもたらしするために洗練してきたものである。このガイドは学習者による基本的な規則の習得を可能にするだけでなく、経験豊富な人々が迅速に疑問に対する回答を見つけることも可能にするだろう。

私たちはこの本の助言とヒントがあなたたちに書こうとする気持ちを与えることを望んでいる。あなたがたの自由な使用はもちろんのこと、我々の言語を日常生活、そして話すことと書くことにおいてひきたたせるためにも。

Justin Vogel (OLCA 代表)

我々は ORTHAL 方式を構想し、この方式は『アルザス語綴字法－Wissembourg から Ferrette に

¹ 訳注 本ガイドの典拠は以下の通りである。

Crévenat-Werner, D. et E. Zeidler (2013), *Guide pour écrire et lire l'alsacien*, Office pour la Langue et les Cultures d'Alsace et de Moselle. (オンラインでも参照可能 <https://www.olcalsace.org/fr/autres-publications>)

なお、本ガイドを含むアルザス語の綴字法をめぐる諸問題については本号掲載の作本大祐による紹介を併せて参照のこと。また、翻訳にあたって Nathanaël Beiner 氏および著者の1人でもある Edgar Zeidler 氏から助言を受けた。記して感謝申し上げる。

² 訳注 アルザス・モーゼル言語文化オフィス (Office pour la Langue et les Cultures d'Alsace et de Moselle) の略称。OLCA はアルザス語の保全を担う有力な公的機関であり、文化・教育に及ぶ広範な活動を展開している。OLCA ウェブサイト <https://www.olcalsace.org/>

³ 訳注 アルザス語綴字法 (Orthographe alsacienne) の略称。このガイドが依拠する綴字法システムである。

至るアルザス語をうまく書く』(2008, Editions Jérôme Do Bentzinger, Colmar) に記述されている。この方式の目的は我々の異なるアルザス諸方言の記述と読解を助けることである⁴。この方式は2つの基本的な発想に依拠している：

- 我々の方言の書記に関する参照元は書記ドイツ語である
- 諸方言の転写はそれらの特殊性を考慮してなされなければならない

ORTHAL はいくつかのヴァリエーションを伴った柔軟な書記体系である。これはすべての方言に適合し、それぞれの書き手が自らの発音の特徴に忠実でありながら自らの方言を書くことを可能にしなければならない。

ORTHAL は何年にもわたる研究と児童・学生、そしてあらゆる地平の方言話者に対する実験の結果であると同時に、アルザス全土において行われた400程度の書き取りの総括でもある。

1つの人工的な標準形を作るために、ヴァリエーション豊かな方言を一元化することは目的ではない。そうではなく、我々の美しきアルザスの言語にみられる多様性を照らし出すことが目的である。

Danielle Crévenat-Werner, Edgar Zeidler

概要

- 6 ページ インTRODクシヨ⁵ (55 ページ)
- 7 ページ いくつかの基本原則 (56 ページ)
- 8 ページ 単純な音あるいは単母音 (57 ページ)
- 14 ページ 複合的な音あるいは二重母音 (64 ページ)
- 17 ページ 子音 (67 ページ)
- 23 ページ おわりに (74 ページ)
- 24 ページ 小言語学用語集 (74 ページ)
- 25 ページ アルザスの言語地図 (75 ページ)

イントロダクシヨ

ORTHAL はアルザスの北から南に至るまで同じ音に対して同じ文字を使用した一貫した綴字法システムである。

例えば、高地アルザス方言には不定冠詞 *ein*, *un* を/a/と発音する傾向および無強勢*⁶[ə]ではあるが語末音節をより力を込めて/a/[a]と聞こえる発音をする傾向がある。このため ORTHAL では以下のように記述することを提案する。

a Wort, ein Wort, un mot 語; **màcha**, machen, faire 作る;

⁴ 訳注 このガイドの目的の1つはアルザス語内部に存在する多様な変種をつづることであり、そのためここで「我々の異なるアルザス諸方言 (nos différents parlers alsaciens)」という記述がなされていると考えられる。この点については本号掲載の作本の解説を参照。

⁵ 訳注 本文のページ数と括弧内にこの翻訳におけるページ数を記載。

⁶ 原注 アスタリスクを伴って使用されている専門用語についてはこの小冊子の終わりに小用語集としてまとめられている。

Maidla, Mädchen, jeunes filles 若い娘.

このことはすべての高地アルザスの話者がこの方式にしたがわなければならないことを意味してはいない。もし彼らが弱化*された/e/を聞くあるいは実現する場合には、彼らは e とつづるだろう。

低地アルザスの話者は上述の 2 つの場合において e と転写される弱化された/e/をむしろ実現する。

e Wort, màche, Maidle

このことはすべての低地アルザスの話者がこの方式にしたがわなければならないことを意味してはいない。彼らが/a/を聞くあるいは実現する場合には、彼らは a とつづるだろう。

この小冊子で示される例はアルザス全土において使用されている発音に対応している。3 つの異なる色は方言変種の位置の特定に役立つ。

—青は**高地アルザス**に対応する

—緑は**低地アルザス**に対応する

—栗色は**高地アルザス**と**低地アルザス**に対応する

方言の虹の集まりの上で集められた音は単母音、2 重に書かれたあるいは組み合わせで書かれた母音および 2 重母音*、子音によって転写される。

以下の表は斜線に囲まれた音⁷を伴う網羅的なリストを取り上げている。これらはフランス語のアルファベト、それに続く角括弧⁸でくくられた国際音声記号*による音声転写によって記述されている。

可能な限り、それぞれの音は 3 つの国際言語 (フランス語・ドイツ語・英語) の例によってあらわされている。ORTHAL の中心をなす音の綴字的転写はアルザス語における様々な例によって示されている。そしてこれらのアルザス語の例はドイツ語とフランス語によって翻訳されている。

いくつかの基本原則

—書記ドイツ語を参照しつつ、一般名詞は大文字で書かれる。

—アルザス語とドイツ語における一般名詞の文法性はいくつかの例 (**de / dr Bütter**, 独 die Butter バター) を除いて対応している。

—定冠詞はそれぞれ以下のように書かれる

de / dr Mànn, 独 der Mann, 仏 l'homme 男

d'Frau / die Frau, 独 die Frau, 仏 la femme 女

s Kind, 独 das Kind, 仏 l'enfant 子供

—アポストロフィの使用はエリジオンを表す

⁷ 訳注 //によって記載されている。

⁸ 訳注 []によって記載されている。

mîr – m’r 1 人称複数主格, **dîr – d’r** 2 人称単数与格, **die – d’** 女性定冠詞

—ORTHAL はフランス語のアクセントとアクセントを使用している。これはアルザスにおいて使用されている様々な発音を完全に取り入れること、および曖昧性を取り除くためである。これらのアクセントはフランス語話者とドイツ語話者に認知されている。かくして、éのアクセントは閉じた音色*を表し、一方、èのアクセントは開いた音色を表す。

dréi - drèi, 独 drei, 仏 trois 3

—同じように、iのアクセントは/é/に近いまたはこの音に対応する非常に開いた/i/の音色を表す。それに対して閉じた/i/はiと書かれる。

Dichter- Dichter, 独 Dichter, 仏 poète 詩人

ORTHAL は長母音を重ね、**Bür** あるいは **Büür** (独 Bauer, 仏 paysan 農民) と書く自由を書き手に与えている。

しかしながら、長母音をいつも重ねて書くことは、美しくない書記を生み出す可能性があり、これを避けるために、ORTHAL は以下の留意すべき2つの単純な公式によるドイツ語における持続の規則に基づいている。

—強勢音節* (V) + 1 子音 (C) = 長母音 (VL):

V+C=VL **Ros**, 独 Rose, 仏 rose バラ

—強勢音節 (V) + 2 あるいは複数の子音 = 短母音 (VB)

V+CC=VB **Ross**, 独 Pferd, 仏 cheval 馬

(Crévenat-Werner の言葉)

アクセントとアクセントを用いることでアルザスにおいて用いられている様々な発音を最もよく転写できます。

単純な音あるいは単母音* (原本 9~13 ページ)

この1つ目の表には単純な音、および高地アルザスと低地アルザスの多様な言語学的領域において使用されている実現形に対応する色付きの例が記述されている。もっともよく音声実現形を記述し例証しているものはフランス語である。国際的参照の枠には必要に応じてドイツ語・英語の事例が含まれている。

フランス語アルファベを用いた音の記述 角括弧には国際音声字母の転写 フランス語例	国際的な参照 ドイツ語 (D) 英語 (E)	文字	アルザス語	翻訳 ドイツ語 フランス語
明るく長い/a/	(D) Lage, 状況	a, ah, aa	Jajer	Jäger, chasseur

<p>[a:] phare (灯台) に 比較しうる</p>	<p>(E) arm</p>	<p>ah は相当する ドイツ語の語 が ah と書かれ る際に使用</p> <p>長母音は 2 重 にして書きう る</p>	<p>Laba Mahl</p> <p>Baam Kas, Kaas</p>	<p>狩人 Leben, vie 人生 Mehl, farine 小麦 粉 Baum, arbre 木 Käse, fromage チ ーズ</p>
<p>明るく短い/a/ [a] pas (否定辞) に おける/a/のよ うに</p>	<p>(D) Gast, 客人</p>	<p>a</p>	<p>Walt hall</p>	<p>Welt, monde 世界 hell, clair 明るい</p>
<p>暗く長い/a/ [ɛ:] anse (握り) に おける/an/に比 較しうる</p>		<p>à, àh, àà àh は相当する ドイツ語の語 が h と書かれ る際に使用 àà はドイツ語 の語が aa を含 んでいる際に 使用 長母音は 2 重 にして書きう る À をパソコン 入力する際に は Alt Gr + ア クサングラー ヴの後に A の 大文字を入力</p>	<p>làda Màga Hàhn Sàal Dàa Bààm Àrm</p>	<p>laden, charger 積 む Magen, estomac 胃 Hahn, coq 鶏 Saal, salle 部屋 Tag, jour 日 Baum, arbre 木 Arm, bras 腕</p>
<p>暗く短い/a/ [ɛ] en (前置詞) に 比較しうる</p>	<p>(E) what</p>	<p>à</p>	<p>Wàld Kràch</p>	<p>Wald, forêt 森 Krach, bruit 音</p>

<p>閉じた長い/i/ [i:] rire (笑う) の 中のように</p>	<p>(D) Liebe 愛 (E) deal</p>	<p>i, ii, ie, ih 対応するドイツ語の語が h で書かれる際に ih を使用 ドイツ語の語が ie で書かれる際に ie を使用 長母音は 2 重にして書きうる</p>	<p>riba Kih Bier wie Fiir Siida sii</p>	<p>reiben, froter こする Kühe, vaches 雌牛 (複) Bier, bière ビール wie, comment どのように Feuer, feu 火 Seide, soie 絹 sein, être be 動詞</p>
<p>閉じた短い/i/ [i] lit (床)の中のように</p>	<p>(D) Fisimatenten ごまかし (E) happy</p>	<p>i</p>	<p>Litt bissa Lischt</p>	<p>Leute, gens 人々 beißen, mordre かむ Liste, liste リスト</p>
<p>長い/e/ [e:]</p>	<p>(D) leben 生きる</p>	<p>e, ee, eh 対応するドイツ語の語が e で書かれる際に e を使用 ee は ee または ö と書かれる際に使用 eh は eh と書かれる際に使用 ì, ie, ih, ì ì は対応するドイツ語の語が i または ü と書かれる場合に使用 ì は他の場合に使用</p>	<p>jeder Meer weh meh scheen dir mir spìre sii</p>	<p>jeder, chacun 各々 Meer, mer 海 weh, mal 痛い mehr, davantage より schön, beau 美しい dir, à toi きみに wir, nous 私たち spüren, sentir 感じる sein, être be 動詞</p>

		<p>ie は対応するドイツ語の語が ie と書かれる場合に使用</p> <p>ih は ih あるいは üh と書かれる場合に使用</p> <p>i をパソコン入力する際には Alt Gr + アクサングラーヴ の後に i を入力または i は Alt 141</p> <p>Ï は Alt 222</p>	<p>sie</p> <p>ihr</p> <p>fühle</p> <p>Mihli</p>	<p>sie, elle 彼女</p> <p>ihr, vous あなたたち</p> <p>fühlen, ressentir 感じる</p> <p>Mühle, moulin 風車</p>
<p>短い/é/ [e] blé (小麦) の中のように</p>		<p>i, é</p> <p>対応するドイツ語の語が i で書かれる際に i を使用。この場合が最も頻繁。しかし、対応するドイツ語の語が ü および eu で書かれる場合にもこの文字を使用</p> <p>対応するドイツ語の語が ei あるいは ie である場合はより珍しい</p> <p>高地アレマン語の頻度の高</p>	<p>Kind</p> <p>Fisch</p> <p>Wirt</p> <p>Glick</p> <p>Frind</p> <p>Ziwwel</p> <p>villicht</p> <p>Maidlé</p>	<p>Kind, enfant 子供</p> <p>Fisch, poisson 魚</p> <p>Wirt, aubergiste 主人</p> <p>Glück, bonheur 幸運</p> <p>Freund, ami 友</p> <p>Zwiebel, oignon 玉ねぎ</p> <p>vielleicht, peut-être たぶん</p> <p>Mädchen, jeune fille 若い娘</p>

		<p>い指小辞における -lé でおわる接尾辞に対して é を使用</p> <p>対応するドイツ語の語が e あるいは ö で書かれる場合は複数の子音の前で é を使用</p>	<p>Chatzlé</p> <p>wénni</p> <p>Lécher</p>	<p>Kätzchen, chaton 子猫</p> <p>wenig, peu 少し Löcher, trous 穴 (複)</p>
<p>長い/è/ [ɛ:]</p>	<p>(D) wählen 投票する</p>	<p>è, èè, èh</p> <p>対応するドイツ語の語が e, ee, eh で書かれる場合に使用</p> <p>ä, äh</p> <p>対応するドイツ語の語がウムラウトを用いて書かれる際に使用</p>	<p>Rèd</p> <p>Meèr</p> <p>Lèhra</p> <p>Gläser</p> <p>wähle</p> <p>Mäwel</p>	<p>Rede, discours 談話</p> <p>Meer, mer 海</p> <p>lernen, apprendre 習う</p> <p>Gläser, verres グラス (複)</p> <p>wählen, voter 投票する</p> <p>Möbel, meuble 家具</p>
<p>短い/è/ [ɛ] cher (高価な) 中のように</p>	<p>(D) Bett 寝台 (E) bed</p>	<p>e</p> <p>複数の子音に後続される場合に e の文字は /è/ で発音</p> <p>対応するドイツ語の語が e あるいは a で書かれる場合に e を使用</p> <p>ä</p> <p>対応するドイツ語の語が e あるいは a で書かれる場合に e を使用</p>	<p>Hewwel</p> <p>kenna</p> <p>sie hett</p> <p>Metzger</p> <p>känna</p> <p>sie hätt</p>	<p>Hebel, gourdin レバー</p> <p>kennen, connaître 知っている</p> <p>sie hat, elle a 彼女は持っている</p> <p>Metzger, boucher 肉屋</p> <p>können, pouvoir できる</p> <p>sie hätte, elle aurait</p>

		ツ語の語がウムラウトで書かれる場合に ä を使用	Bäck	彼女は持っている (接続法 2 式) Bäcker, boulanger パン屋
弱化された/e/ [ə] largement (広く) の中のように	(D) Gabe 寄付 (E) about	e 弱化あるいは無強勢の/e/は接頭辞 be, ge, ver, zer、あるいは語の先頭あるいは終わりの無強勢音節において頻繁に実現される また低地アルザスにおける定冠詞と不定冠詞においても実現される	läche Begriff begriffe verrückt dernoh e de	lachen, rire 笑る Begriff, concept 概念 begreifen, comprendre 理解する verrückt, fou 狂っている danach, ensuite 次に ein, un 不定冠詞 der, le 定冠詞
とても開いた長い/e/ [æ:] in に比較しうる ⁹	(E) bad	ë, eh 対応するドイツ語の語が h で書かれる場合に eh を使用	dër Mënùng Fehler	dieser, celui-ci こちら Meinung, avis 意見 Fehler, erreur 誤り
閉じた長い/u/ [y:] tube (管) における/u/と比較しうる	(D) Lüge 嘘	ü, üü, üh 長母音は 2 重化しうる 対応するドイツ語の語が h で書かれるに üh を使用	süfer Lüüs Ühr	sauber, propre 清潔な Laus, pou シラミ Uhr, montre 時計
閉じた短い/u/ [y]	(D) Brücke 橋	ü	tüsche	tauschen, échanger 交換する

⁹ 詳しい記述がなかったため、著者である Zeidler 氏に尋ねたところ、vin, pain といったフランス語の語における in に対応しているとの回答を得た。

bu (酔った)における/u/のように			Hüss	Haus, maison 家
閉じた長い/eu/ [ø:] pieuse (信心深い)における/eu/と比較しうる	(D) hören 聞こえる	ö	Fröj	Frage, question 問い
閉じた短い/eu/ [ø] mieux (よりよく)の中のように	(D) Ökonomie 経済	ö	Vöjjel	Vogel, oiseau 鳥
長い/œ/ [œ:] un (不定冠詞)に比較しうる	(D) Dörfer 村(複)	œ	Dœj œnder	Tag, jour 日 andere, autre 別の
長い/o/ [o:] dose (服用量)における/o/に比較しうる	(D) Hose ズボン	o, oo, oh 長母音は2重にして書きうる 対応するドイツ語の語がhで書かれる場合に oh を使用	Vogel Frooch Ohr	Vogel, oiseau 鳥 Frage, question 問い Ohr, oreille 耳
短い/o/ [o] au (縮約形)の中のように	(D) Oase オアシス	o	Loch	Loch, trou 穴
閉じた長い/ou/ [u:] fougue (熱情)の中におけるouに比較しうる	(D) Hut 帽子 (E) loser	u, uu, uh 対応するドイツ語の語がhで書かれる際に uh が使用	gut Guufa Suhn Huhn	gut, bon 良い Stecknadel, épingle ピン Sohn, fils 息子 Huhn, poule 鶏

る				
閉じた短い/ou/ [u] où (どこ) の中 のように	(D) zuerst まず	u	Sunna Wurst	Sonne, soleil 太陽 Wurst, saucisse ソ ーセージ
とても開いた 長い/ou/ [o:] honte (恥) にお ける/on/に比較 しうる		ù, ùù, ùh 長母音は 2 重 にして書きう る 対応するドイ ツ語の語が h で書かれる際 に ùh を使用	Sùhn Gùùf Stùhl	Sohn, fils 息子 Stecknadel, épingle ピン Stuhl, chaise 椅子
とても開いた 短い/ou/ [o] on (不定代名 詞) に比較し うる		ù	Hùnd dùmm	Hund, chien 犬 dumm, stupide 愚 かな
/u/と/eu/の間 的な長い音		ue	Bue guet Bluem	Bube, garçon 少年 gut, bon 良い Blume, fleur 花

複合的な音あるいは二重母音* (原本 14~16 ページ)

この 2 つ目の表には二重母音、および高地アルザスと低地アルザスの多様な言語学的領域において使用されている実現形に対応する色付きの例が記述されている。もっともよく音声実現形を記述し例証しているものはフランス語である。国際的参照には必要に応じてドイツ語・英語の事例が含まれている。

フランス語アルファベを用いた音の記述 角括弧には国際音声字母の転写 フランス語例	国際的な参照 ドイツ語 (D) 英語 (E)	文字	アルザス語	翻訳 ドイツ語 フランス語
--	------------------------------	----	-------	---------------------

/a+ou/ [au]	(D) Haus 家 (E) house	au	Frau Baum	Frau, femme 女性 Baum, arbre 木
/a+i/ [ai]	(D) drei 3 (E) by	ai,ei 対応するドイツ語の語が ai で書かれるあるいはeを含まない場合に ai を使用 対応するドイツ語の語が ei, eu で書かれるあるいはeを含む場合に ei を使用	Kaiser Maidla Mai Baim Heimet Freindin Freid	Kaiser, empereur 皇帝 Mädchen, jeune fille 若い娘 Mai, mai 5月 Bäume, arbres 木(複) Heimat, pays natal 故郷 Freundin, amie 女友達 Freude, joie 喜び
/o+i/ [oi] coit (交尾) の 中のように	(E) boy	ai, oi 対応するドイツ語の語が au で書かれる場合に ai を使用 ほかの場合に oi を使用	Bauim ai Pauis Hoi Stroih	Baum arbre 木 auch, aussi も Pause, pause 休憩 Heu, foin 干し草 Stroh, paille 藁
/an+i/ [ɛi]		ài, ài 対応するドイツ語の語が au で書かれる場合に ài を使用 ほかの場合に ài を使用	Bàuim ài Pàuis ràih	Baum, arbre 木 auch, aussi も Pause, pause 休憩 roh, cru 生の
/é+i/ [ei]		éi	dréi	drei, trois 3
/è+i/ [ɛi]		èi, äi 対応するドイツ語の語が e で	drèi Hèimet	drei, trois 3 Heimat, pays natal 故郷

		書かれる場合に èi を使用 ほかの場合に äi を使用	Schrèi Käifer fäischer Mäidla	Schrei, cri 叫び Käufer, acheteur 買い手 finster, sombre 暗い Mädchen, jeune fille 若い娘
/œ+u/ [œy] bœuf における /œ+/u/ に比較 しうる	(D) Leute 人々 (D) Häuser 家 (複)	eu, äu 対応するドイツ語の語が e で書かれる場合に eu を使用 ほかの場合に äu を使用	Beleuchtung keusch verseucha Bäum Sundgäu	Beleuchtung, illumination 照 明 keusch, chaste 純 潔 な verseuchen, polluer 汚染す る Baum, arbre 木 Sundgau (地名)
/eu+i/ [øi] eux (彼ら) に おける /eu+/i/ に比較しうる		öi	blöi döisig röih	blau, bleu 青 tausend, mille 千 roh, cru 生の
/i+a/ [ia] fiable (信頼で きる) におけ る /ia/ のように		ia	Liad wia	Lied, chanson 歌 wie, comment どのように
/i+è/ [iɛ] [iɛ]		iè	Lièdel lièb	Liedchen, chansonnette 小 唄 lieb, gentil やさ しい
/u+a/ [ya] [ya]		üa	Büa Hüat	Bube, garçon 少年 Hut, chapeau 帽

				子
/u+弱化された e/ [yə]		üe	Büe Hüet	Bube, garçon 少年 Hut, chapeau 帽子
とても開いた /ou/ honte (恥) における /on+/i/ に比較しうる [oi]		üi	Süi büia	Sau, cochon 豚 bauen, construire 建てる

子音 (原本 17~22 ページ)

/p-b/および/t-d/の転写に関する説明

ORTHAL はすべての人々の発音に忠実である綴字法とわかりやすさの間でバランスを取ることを目指している。疑義が生じる場合には、我々は理解することを優先している。この理解は学習者、特にバイリンガルクラスの生徒に向けて、標準ドイツ語を参照しながらなされている。

アルザス諸方言は[p]と[b]、[t]と[d]をはっきりとは弁別していない。一般的に、音声的実現は[b][d]により近い。しかし、このことが独 Pilot, 仏 pilote パイロットを **Bilod** と書く、また独 Tante, 仏 tante おばを **Dànde** と書く理由になるのか？ドイツ語を参照することはしばしば若いドイツ語学習者の理解と勉強を助ける。したがって、我々は **Pilot, Tànte** とつづる。

しかしながら、同形異義語との混同が生じない場合には、ドイツ語で t と書かれる場合に d を使用することを妨げるわけではない。

widderscht, 独 weiter, 仏 plus loin より遠く; **Sunndig / Sùnddàà**, 独 Sonntag, 仏 dimanche 日曜日
特に d の使用は「高地ドイツ語」に真に対応する形式を持たないアルザス語独自の語に当てはまる。

Dubel / Doddel, 独 Trottel, 仏 imbécile まぬけ; **Doba**, 独 Pfoten, 仏 patte 足; **doidla**,
独 schwanken, 仏 tituber ふらつく

(Zeidler の言葉)

方言の書記は書記ドイツ語を参照している。

この 3 つ目の表には子音、および高地アルザスと低地アルザスの多様な言語学的領域において使用されている実現形に対応する色付きの例が記述されている。可能な限り音声実現形を記述し例証しているものはフランス語である。国際的参照の枠には必要に応じてドイツ語・英語の事例が含まれている。

フランス語ア	国際的な参照	文字	アルザス語	翻訳
--------	--------	----	-------	----

ルファベを用いた音の記述 角括弧には国際音声字母の転写 フランス語例	ドイツ語 (D) 英語 (E)			ドイツ語 フランス語
/p/ [p] pas (否定辞)における/p/に比較しうる	(D) Punkt 点 (E) point	p, pp	Päckel tàppa	Päckchen, paquet 包み tappen, avancer à tâtons おぼつかない足取りで歩く
/b/ [b] bas (低い)における/b/に比較しうる	(D) Bank 銀行 (E) bank	b, bb	Bäckel Schrubber	Bäckchen, pommette 頬骨 Schrubber, balai-brosse 床ブラシ
/t/ [t] tas (堆積)における/t/に比較しうる	(D) Tisch テーブル (E) table	t, tt	Tritt rette	Tritt, coup de pied キック retten, sauver 救う
/d/ [t] dos (背)における/d/に比較しうる	(D) Dämon 悪魔 (E) demon	d, dd	Dritt redde Doddel	Dritte, troisième 3番目 reden, parler 話す Trottel, imbécile マヌケ
/pf/ [pf]	(D) Pfeife パイプ	pf フランス語に存在しない音。対応するドイツ語の語に対して理解しやすくするため	Pfaffer rùpfe pfiffa Zopf	Pfeffer, poivre 胡椒 rupfen, plumer むしる pfeifen, siffler 口笛を吹く Zopf, natte 編

		に bf ではなく pf と書く。		んだもの
/ts/ [ts] tsigane (ジプシー) のように	(D) Zeit 時間	z, tz 語頭または長母音・2重母音の後ろで z を使用 短母音の後ろで tz を使用	Zittùng Witz Kritzùng Heizig	Zeitung, journal 新聞 Witz, blague 冗談 Kreuzung, intersection 交差 Heizung, chauffage 暖房
/k/ [k] cas (場合) のように	(D) Kuss キス (E) kiss	k, ck, kk, c 語頭または長母音・2重母音の後ろで k を使用 短母音の後ろで ck を使用 kk と c の使用はいくつかの借用語に限られる。	Kàss Hoka hocka Mokka Schock Computer	Kasse, caisse 箱 Haken, crochet フック hocken, être accroupi しゃがんだ Mokka, moka モカ Schock, choc ショック Computer, ordinateur コンピューター
/g/ [g] gars (少年) のように	(D) gut 良い (E) good	g, gg 語頭または長母音・2重母音の後ろで g を使用 短母音の後ろで gg を使用	Gàss Zug Durzug Zùgg Dùrichzùgg	Gasse, ruelle 路地 Zug, train 電車 Durchzug, courant d'air 通風 Zug, train 電車 Durchzug, courant d'air 通風
ach 音/ch/	(D) Dach 屋根	ch	Bàch	Bach, rivière 小

[x]		音が喉元をこする際に ch を使用	Ching verlocha	川 Kind, enfant 子供 vergraben, enterrer 埋める
/r/ [r] roue (車輪) のように	(D) rot 赤い (E) red	r, rr 音が少し怒ったときの rrr を思わせる r の使い方	verlor Bàrt dirr	verloren, perdu 失われた Bart, barbe 髭 dürr, sec 乾いた
/ng/ [ŋ] parking (駐車場) のように	(D) Ding もの (E) ring	ng	làng gsùnge	lang, long 長い gesungen, chanté 歌った
/ngk/ [ŋk]	(D) krank 病気の	nk [ŋ]の後に[k]を発音する際に nk を使用	schanka gsùnke dànkbar	schenken, offrir 送る gesunken, sombre 沈んだ dankbar, reconnaissant 感謝している
/ks/ [ks] axe (軸) のように	(D) Fuchs 狐 (E) fox	x, chs, ks, gs 対応するドイツ語の語を参照することでしばしば厄介な混乱を避けることができる	Sex sechs links gsùnd	Sex, sexe 性 sechs, six 6 links, gauche 左 gesund, en bonne santé 健康な
/ksch/ [kʃ]		ksch 対応するドイツ語の語の正書法に近づいたままのために ksch を	naachtsens heechsents	nächstens, prochainement 近々 höchstens, au maximum 最大でも

		使用		
/kv/ [kv] quetsche (クエ ッチ) のよう に	(D) Quelle 源 (E) queen	qu	Quàl Quàlitàt	Qual, supplìce 苦痛 Qualitàt, qualitè 質
/schp/ [ʃp] schéma (図) の /sch/ と /p/ のよ うに	(D) Spiel 遊び	sp, schp ドイツ語に倣 って、美しくな い書記法を避 けるために語 頭の/schp/の音 に対して sp を 使用。分離動詞 の音節の切れ 目ならびに複 合語の限定要 素と被限定要 素の間の切れ 目に注意。接頭 辞と語根を区 別するように。 一方、語中ある いは語末では schp を使用。方 言の発音は spam (スパム) のような sp と 発音される対 応するドイツ 語の語と発音 が異なる。	spot Sproch üsspracha verspreche Lùschtspiel Üssproch Ànspànnung Knoschpa Kaschperla Waschp	spät, tard 遅く に Sprache, langue 言語 aussprechen, prononcer 発音 する versprechen, promettre 約束 する Lustspiel, comédie 喜劇 Aussprache, prononciation 発音 Anspannung, tension 緊張 Knospen, bourgeons 芽 Kasperle, guignol 滑稽な 人 Wespe, guêpe スズメバチ
/scht/ [ʃt] chtimi (北仏人)	(D) Stunde 時 間	st, scht ドイツ語に倣 って、美しくな	Stàdt stolz	Stadt, ville 町 stolz, fier 誇り を 持 っ た

のように		い書記法を避けるために語頭の /scht/ の音に対して st を使用。分離動詞の音節の切れ目ならびに複合語の限定要素と被限定要素の間の切れ目に注意。接頭辞と語根を区別するように。一方 sch は語中あるいは語末で使用。方言の発音は stade (競技場) のような st と発音される対応するドイツ語の語の語と発音が異なる。	üfstoh üfstecke Bàchstein Lahnstüahl Àbstànd Verstånd koschte treeschte Lùscht Poscht	aufstehen, se lever 起きる aufstecken, abandonner 放棄する Backstein, brique レンガ Lehnstuhl, fauteuil 肘掛け椅子 Abstand, écart 隔たり Verstand, raison 理由 kosten, coûter かかる trösten, consoler 慰める Lust, envie 欲求 Post, courrier 郵便
/f/ [f] fou (狂った) のように	(D) Vater 父 (D) für ために (E) father	v, f 対応するドイツ語の正書法を参照しながら f と v は使用する。	Volk Fleisch vorfähre furtfähra	Volk, peuple 国民 Fleisch, viande 肉 vorfahren, avancer 進む fortfahren, partir 出発する
/s/ [s] sur (前置詞) のように	(D) Busse バス (複) (D) Buße 罰金 (E) sale	ss, ß, s 短母音には ss が続き、長母音・2重母音に	Hàss wisse	Hass, haine 憎しみ wissen, savoir 知る

		はドイツ語のように B (Alt 225) あるいは s が続く	Stroß heiße Gràs	Straße, rue 通り heißer, s'appeler という名である Gras, herbe 草
/h/ [h] hé (おい[間投詞]) のように	(D) Haus 家 (E) house	h 無声の h は長母音を表すために使用され、対応するドイツ語の語においてもこのことが当てはまる場合に h を用いる。	Herr hol hohl Wohnung	Herr, monsieur ~さん hol, va chercher 探せ hohl, creux 空洞の Wohnung, appartement 住居
/j/ [j] iode (ヨウ素) のように		j, y gの変異体として j は独自の地位を持つ子音である。 長母音・2重母音の後で半子音である。読みやすくするために母音衝突*の際にも使用。 y の使用はいくつかの借用語に限られる	Làj Jajer fröje Mihj Kiahj nèji Yàcht Yoga	Lage, situation 状況 Jäger chasseur 狩人 fragen, demander 頼む Mühe, peine 苦労 Kühe, vaches 雌牛 (複) neue, neufs/nouveaux 9/新しい (複) Yacht, yacht ヨット Yoga, yoga ヨガ

おわりに

L'arbre, Der Baum (木) という象徴的な例は我々にとっては見事に ORTHAL の哲学とその素晴らしい働き具合を示している。

アルザスの南から北において集められた様々な発音に忠実でありながら、対応するドイツ語の語とのつながりなしに書くことに決して過度に陥ることなく、「木」を書くことができる。

Bäum, Bàuim, Bauim, Baum, Baam, Bààm, Bœm

我々はこの小冊子があなたたちにアルザス語で書きたいという願望を与え、数多くなっている ORTHAL に依拠した記述物の読解を容易にすることを望んでいる。そして、多様性のなかにある我々の言語をたたえよう！

(Crévenat-Werner の言葉)

私たちはこの小冊子があなた方にアルザス語で書く喜びを与え、ますます数多くなるであろう ORTHAL で書かれたテキストの読解を楽にすることを望んでいます¹⁰。私たちはかくも多様なあらゆる我々相互の言語をたたえます！

(Zeidler の言葉)

私たちはこの小冊子があなた方にアルザス語で書く喜びを与え、ますます数多くなるであろう ORTHAL で書かれたテキストの読解を楽にすることを望んでいます。多大なる多様性の中の我々の言語をたたえましょう！

AGATE (越境アルザス書記アカデミー) メンバーの熱心で建設的な協力に対する熱烈な感謝とともに。

Danielle Crévenat-Werner, Edgar Zeidler

小言語学用語集

アクセサン	母音の響きと発音を変化させる弁別符号。フランス語では é アクサンテギュは閉じた音色を表し、アクセサングラーヴ è またはアクセサンシルコンフレックス ê は開いた音色を表す。
強勢を持つ音節	強勢を持つ音節は強勢を持つ (accentué) といわれている。この音節は特にゲルマン諸語において他の強勢を持たない、あるいは弱い強勢を持つ音節に対して強く発音されることによって特徴づけられる。独 Hausaufgabe 宿題
A.P.I.	国際音声記号。世界で用いられている多様な発音を再現するためによく知られたアルファベ、特にラテン語とギリシャ語のアルファベおよび作り出された文字と弁別符号によって構成されている。1つの音に1つの記号を使用し、1つの記号に1つの音を使用することを原理とし

¹⁰ 原文を参照すればわかるように、この箇所は両氏とも同じ内容を異なるアルザス語の変種で書いている。

	ている。
無強勢	強勢を持たないが無音ではない音節または文字。独 Begriff 概念 ¹¹
限定要素	複合語において先行し、被限定要素の意味を限定する要素。独 Hausfrau 主婦
被限定要素	複合語において先行する要素により限定される要素。独 Hausfrau 主婦
弁別 (記号)	アルファベの価値を変化させる追加要素。フランス語のアクセントギュー・アクセングラーヴ・アクセンシルコンフレックスは e[ə] の文字に異なる価値を与える。 pré 牧場, près 近くに, prêt 準備のできた
二重母音	産出の途中で音色が変化する母音。調音器官は流動的に漸進的変化を起こす。独 Maus ネズミ英 mouse 。そして、分音、すなわち ha-ir (憎む) または hi-er (昨日) のような 2 音節発音は持たない。
弱形または無強勢の e	強勢あるいは語気を持たないが無音ではない e/ の音を表す。特にドイツ語における Liebe (愛) のような e 語末音節と beschreiben (記述する) や gemacht (つくられた) のような be, ge の接頭辞に該当する。
母音衝突	aorte (大動脈) のように 2 つの母音が衝突することで生じる不快感であり、これは話者に発音する際に開口した状態を保つことを余儀なくさせる。好音調といわれるリエゾンはこのことを避ける。仏 Si l'on (もし+不定代名詞) は si on よりも、 Wùche-n-end (週末) は Wùche-end よりも優美である。
単母音	1 つの音だけを産出する単純な母音。
語基	似通った一連の語に共通する基礎。「語根」とも呼ばれる。仏 livrer (渡す), livraison (引き渡し) における livr-
音色	例えば/a/と/o/を区別することを可能にするような、ある音に特有の質。
強勢音節	この用語によって、二次的強勢あるいは無強勢の音節に対して主強勢を持つ音節が指示される。ドイツ語では主強勢は一般的に複合語の 1 番目の音節に置かれる。独 Nachthemd 寝巻

アルザスの言語地図 (原本 27 ページ)

この区分は大まかな傾向のみを表している：同じ地域であっても。方言変種は無数にあり、どこで1つの領域が終わり、どこから別の領域が始まるのかを明確にすることは不可能である。言語学的な境界画定は曖昧である。

さらにアルザス方言は相互に作用し、互いに影響を与え合っている。この現象は今日ではかつてよりも活発になった人口の動態によって際立っている。

¹¹ 訳注 Begriff の Be-は無強勢である。

- ローヌラインフランク語 黄色部分
- 南部ラインフランク語 オレンジ色部分
- 北部低地アレマン語 緑色部分
- 南部低地アレマン語 青色部分
- 高地アレマン語 紫色部分



(みやこし しゅん / 筑波大学大学院, すぎうら れい / 東京大学大学院)